

平成30年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input type="checkbox"/> 共同研究推進 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input checked="" type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	八戸市との比較からみる函館市水産加工業の発展条件に関する研究
報告者氏名・所属・職名	孔 麗・函館校・教授
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	孔 麗・函館校・教授
研究内容及び成果の概要	
<p>水産加工業は原料立地的な性格が強く、函館市と八戸市は「産地流通・産地加工」による「素材加工型」の業態が中心であった。また、ともに「イカのまち(街)」を標榜する水産都市であり、水産加工業が地域経済を支えてきたが、それを支えてきた漁獲量は、国際的漁業規制や水産資源保護のための規制の強化、漁業者の減少と高齢化によって減少を続けている。</p> <p>それに加えて、量販店流通の発達によって加工原料の安定的確保が迫られ、原料は他産地からの移入や輸入に依存するようになってきている。こうして水産加工業の「空洞化と脱産地化」が、この20数年に急速に進展してきた。それと同時に、漁獲される魚種も変化しており、水産加工業もその対応に苦慮している。</p> <p>本研究では、両市の漁獲量と魚種の変化の状況、水産加工業と水産加工品目の変化を明らかにした上で、代表的な水産加工品の製造の取組みについて明らかにした。</p> <p>その結果、八戸市は最近漁獲量が増加してきたサバの新商品開発、ブランド開発に積極的に進めてきているのに対し、函館市は伝統的なイカ製品に固執し、漁獲量が増加しているハマチの加工品開発に着手したばかりであることが明らかになった。この両市の取組みの差は、漁業者、水産加工企業・団体、行政による組織的な対応の違いから生まれている。</p> <p>今後、函館市の水産加工業が発展していくためには、組織的な対応が不可欠であることが明確になった。</p>	
成果の公表の状況	
<p>【学術論文】</p> <p>・孔麗, 「漁獲量と魚種の変化に対する水産加工業の取組み—八戸市との比較からみる函館市の今後の対応—」, 北海道教育大学・函館人文学会『人文論究』, 第88号, 2019年3月, 45～56頁</p>	
教育現場で活用可能な分野・教材等	
担当する地域プロジェクトの授業と専門科目である国際比較企業論の授業で利用可能である。	

配布又はダウンロード可能な資料	抜刷り30部
問合わせ先	代表者： 孔 麗 電 話： FAX： mail： kon.ri@h.hokkyodai.ac.jp